



©宮城県・旭プロダクション

第4号
令和2年
7月号

セーフティ123通信

発行：宮城県・みやぎ交通安全啓発・実践キャンペーン実行委員会

「セーフティ123通信」は、交通安全キャンペーン「セーフティ123」の参加者を応援する情報誌です。

セーフティ123に参加されているみなさん！宮城県内を走るドライバーのみなさん！安全運転していますか？

事件事例から学ぶ安全運転 テーマ「**運転中は適度な緊張感を**」

【事故概要】

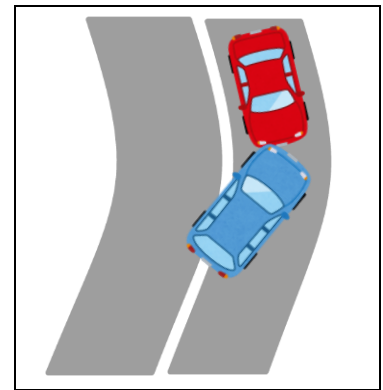
緩やかなカーブで、センターラインをはみ出した車と、対向車線を走っていた車が正面衝突した事故。

ドライバー語録

「クラクションを鳴らされて、はっとして気が付いたら目の前には対向車が…。」

「連日の暑さで身体が疲れていたことや、昼食後の運転で、頭がぼお～としていました。」

「エアコンの涼しい風に、つい、うとうとしながら運転していたので、カーブが迫っていたことにも全然気づきませんでした…。」



夏場は「**車線はみ出しによる事故**」が多発傾向！

夏場は、車線はみ出しによる正面衝突や路外逸脱、工作物衝突などの交通事故が、最も増加する傾向にあります。特に、昨年7月の交通死亡事故発生状況は、8件死亡事故が発生し、9人の方が亡くなっております。

交通事故の主な原因として、漫然運転、脇見運転などの前方不注意によるものです。

また、道路形状に変化が少ない道路では、見通しの良さなどから、スピードを出したり、脇見運転をしたり、注意力が散漫となり、漫然運転になりがちです。

カーブの手前では、十分にスピードを落とし、常に危険を予測しながら交通状況の変化に応じた運転に努めましょう。



疲労等から「**居眠り運転によるはみ出し事故**」も！

じめじめとした梅雨が終わるこれからの季節は、気温も少しずつ高くなり、夏の暑さが心身への負担や疲労へと繋がりが、普段の運転にも大きく影響を及ぼす場合もあります。

特に暑い日は、窓を閉め切り、エアコンの心地よい風と疲労感などが重なり、いつの間にか「居眠り運転」に陥り、対向車にクラクションを鳴らされて「ドキッ」とすることも。

夏場の運転は「適度な緊張感をもったゆとりのある運転」を心掛け、気を引き締めて自らが交通事故の原因とならないためにも運転中に眠気を感じたら、無理に運転を継続せず、早めに休憩を取りましょう。

